

特別展覧会 聖徳大学新1号館竣工記念 「近世の絵巻」展

ごあいさつ

聖徳大学は、学術・教育の質的向上を目指して関係資料を収集保存して、教育資料として活用を図っております。なかでも建学の精神を基にしたわが国の文学関係の学術資料は年々充実し、本学園資料の中核を形成しております。

この度、時代の要請に対応した近代的な機能を備えた新1号館の竣工を記念して所蔵絵巻物を公開します。

絵巻の歴史は、ふるく中国に起源を持ち、内容を述べる詞書（ことばがき）と、それに対応する絵が交互に配列されており、わが国には奈良時代に伝わりました。平安時代以降、各種の物語絵として描かれ、わが国独自の様式を生み出し発展しました。

今回は、教訓的・童話的な近世の御伽草子絵巻を中心に展示いたします。絵巻を通して見られる日本人の考え方や、描かれた絵画、美しい詞書に注目していただければと思います。

平成21年4月18日

学校法人東京聖徳学園理事長
聖徳大学学長
聖徳大学短期大学部学長
学園長 川並弘昭



酒呑童子絵巻」下巻より 江戸時代



七夕絵巻」下巻より 江戸時代



敦盛絵巻」上巻より 江戸時代



浦島太郎絵巻」 江戸時代



「竹取物語絵巻」 下巻より 江戸時代



「長恨歌絵巻」 中巻より 江戸時代



「鶴の草紙絵巻」 江戸時代



* 都合により期間中展示替を行います。

絵巻について

ストーリーをもった物語や説話などを絵画化し、絵と詞書（文章）とで構成された横長の巻物。「絵巻物」ともいう。時代的には、10世紀から17世紀にかけて作られたものが多い。また、日本の伝統的な画法である大和絵の画風で描かれたものを中心としている。古くは奈良時代のものもあるが、本格的な絵巻の初めは、国宝『源氏物語絵巻』（徳川美術館蔵）である。

「絵巻物」「絵巻」という語は近世になってから造られた語といわれ、中世では『源氏絵』とか『平治絵』『一遍^{ひじりえ}聖絵』のように、「・・・絵」と呼ばれていた。

その内容は、物語・説話・軍記物語・寺社の縁起、神仏の靈験譚、高僧の伝記、お伽草子など多様である。このうち、中世末から近世にかけて数多く現われたお伽草子絵巻を、冊子本形態の絵本とあわせて、「奈良絵本・絵巻」と呼ぶこともある。なぜ「奈良」というかは明らかでない。

今回展示する絵巻は、「奈良絵巻」を主とするが、『竹取物語』（物語）『敦盛』（幸若舞曲）などは中世以前の作品に基づき近世に作られた絵巻である。また、『浦島太郎絵巻』のように、素朴な感じを与える、サイズも小振りの作品がある一方、『酒吞童子絵巻』『長恨歌絵巻』などのように、料紙も絵も詞書も贅を凝らした仕立ての豪華本もある。これらの豪華な絵巻は、おそらく大名などからの依頼によって制作されたものであろう。

絵巻の鑑賞は、絵巻を^{ひら}披き、ほぼ60センチメートルぐらいずつ見て行く。披き、見て、巻く、という動作を繰り返すが、右から左へ時の経過や事件の進行に従って、物語も絵も展開していくのである。



会 期 平成 21 年 4 月 18 日 (土) ~ 平成 21 年 8 月 28 日 (金)
午前 9 時 ~ 午後 5 時 (休館 毎日曜 祝日と学事日程による休業日)

会 場 聖徳大学 8号館 ギャラリー

会場への案内 : R常磐線・R乗り入れ地下鉄千代田線 新京成線とも松戸駅
下車、東口より徒歩 5分

発行 問合わせ 聖徳大学川並記念図書館

Tel 047 - 365 - 1111 (大代) <http://www.seitoku.jp/lib/>

